

平成 20 年 3 月 15 日

# NEWS RELEASE



株式会社アマダ  
社長室広報グループ

## アマダグループ再編

### 第一弾は工作機械事業への本格参入とプレス機械の海外事業拡大 金属加工機械の総合メーカーへ加速

アマダは中期 3 カ年計画でグループ再編を進め、アマダにグループ事業を集中させる。その第一弾として 4 月 1 日、工作機械の生産・販売を担当しているグループ企業(株)テクノワシノ（社長 伊熊 啓人）の社名を(株)アマダワシノへ変更するとともに 80%の持ち株比率を 100%に引き上げる。あわせてアマダのプレス機械を手がける(株)アマダプレステック（社長 藤田 雄二）を吸収合併する。事業拡大と収益向上を狙いとするグループ再編。この再編により塑性加工、レーザ加工、切削加工の 3 技術が充実、板金加工のアマダから「シートメタルから精密部品加工まで」あらゆる金属加工に対応できる金属加工機械の総合メーカーへ企業形態が大きく変化することになる。

今回の再編は事業の集中と経営の効率化による事業の拡大が主な目的。今回の再編対象事業である工作機械とプレス機械は共に市場規模に比べて売上額が少なく、大きな成長余力を残している。

アマダの工作機械の売上高は約 220 億円（07 年度見込み）。機種別売上構成比率では 10%未満という小さな事業。国内の工作機械大手の売上高と比較すると 10 分の 1 程度。工作機械の国内需要は 1 兆 6000 億円、また世界市場は 6 兆円と推定されている。

これまでアマダでは、工作機械の生産・販売をグループ企業のテクノワシノに任せてきたが、今後の企業の発展を考えると、大きな市場を持つ工作機械の拡充が必要と判断、アマダの経営のもとで事業展開をはかり、現在の海外向け工作機械の売上を 2010 年度、30%から 50%程度に引き上げる考え。

今回の社名変更は“アマダの工作機械”を強くアピールするとともにアマダの工作機械事業への本格的参入を示すもの。テクノワシノの主力機種は旋盤と研削盤の 2 機種。今後も代理店を中心とする販売は継続するが、社名変更を機に展示場の相互利用、サービス拠点の拡充をはかり、アマダの強力な販売体制の中で市場の拡大に取り組む。

これまで工作機械は淡い浅黄色であったが、アマダの赤と黒のコーポレートカラーに変え、社名変更だけでなく、機械そのものもアマダを主張、強力な印象づけを行う。4月には INTERMOLD2008 などの公共展示会、伊勢原本社のソリューションセンターに赤と黒の新しい工作機械を展示、アマダの工作機械をデビューさせる。その後、シカゴのソリューションセンターをはじめ海外の展示場に相次いで投入、国際市場でもアマダの工作機械を売り込んでいく。

テクノワシノは工作機械の名門「ワシノ機械」が前身で、設立は 1943 年 8 月。1978 年、アマダは第三者割当増資により 16.7%の株式を取得、経営に参画するようになった。その後も資本比率を増やし、現在の持ち株比率は 80%。アマダの傘下にあるが、伝統の経営を尊重して直接経営に関与することは控えてきた。

現在、愛知県小牧市下小針中島 2-158 番地に本社を置く。資本金は 2 億 8500 万円で、従業員数はおよそ 400 名。

一方、(株)アマダプレステックの吸収合併は、これまでほとんど手つかずの状態にあるプレス機械の海外展開を図るのが目的で、3 年後の 2010 年度にはアマダのプレス機械の海外売上比率を 3 倍に引き上げる計画。

アマダプレステックは 1976 年 12 月の設立で、以後、アマダのプレス機械を一手に引き受けてきた。汎用プレス、リンクプレス、それにサーボプレスをもち、加圧力 15 トンから 400 トンまでの中・小型機を中心に国内市場に向けて事業を展開してきた。年間の販売額は 135 億円（07 年度見込み）で、このうち海外向けは 10%弱。

アマダの主力機種である板金加工機械は世界各国で大きな市場を占めているが、なかでも東欧、BRICs においては学校、病院、道路、橋、上下水道、電気・ガス、電話等の社会基盤となるインフラストラクチャー整備に関連して需要が拡大してきている。とくにプレス機械は他の板金加工機械との融合による生産システム構築のうえで欠くことのできないマシンとなっており、一日も早い海外展開が求められていた。

こうしたことから海外に向けてプレス機械を供給していく方針を固めたもので、合併というグループの融合によって製品をアマダの強力な販売網に乗せていくことにした。

アマダが扱う中・小型プレス機械の 2007 年の世界市場は約 850 億円（当社試算）で、その 70%は海外市場。そこをターゲットに売上拡大をはかる。

市場別にみると欧州・ロシアが 200 億円、中国 40 億円、アセアン 300 億円、それに北米・カナダ・メキシコが合わせて 60 億円。北米は医療機器と精密加工、中国はデジタル家電、液晶、自動車部品、アセアンは自動車部品、デジタル家電、OA 機器向けの需要が期待できる。欧州は板金加工機械の既納入企業への販売を中心に展開をはかる。

投入する機種は、北米がリンクプレスとサーボプレスを中心とするが、基本的には高性能機種であるサーボに重点を置く。中国とアセアンは一部サーボを扱うものの、当面はリンクプレスの販売に特化する。そして欧州では英国、ドイツの工業先進国にはサーボを、東欧、ロシアには汎用機を主体にして市場の開拓にあたる。

海外向けに販売組織を拡充するほか現地法人および海外のソリューションセンターを活用して“アマダのプレス”を世界の市場に浸透させる。

アマダプレステックは、アマダと同じ神奈川県伊勢原市石田 200 番地に本社を置く。資本金は 1 億 500 万円。社員数は約 140 名。

金属加工全般に用いられる技術には塑性加工（※1）、レーザ加工、切削加工（※2）の 3 種類がある。塑性加工のできる機械はパンチングプレス、プレスブレーキ、シャーリングマシン、プレス機械があり、レーザ加工には切断に用いる CO<sub>2</sub>レーザ加工機、溶接に使う YAGレーザなどがある。また切削加工にはバンドソー、工作機械があり、アマダは金属を加工する技術と機械をすべてもっている。

金属加工機械は家電、自動車、建設機械などいろいろな製品の加工に用いられるが、1 機種だけでは製品はできず、塑性加工、レーザ加工、そして切削加工などの各種マシンの組み合わせ・融合でつくられる。今後、アマダは金属を加工する塑性、レーザ、切削というすべての技術と機械をもつメーカーとして、21 世紀のモノづくりをリードする生産システムを提案していく考えだ。そのためそれぞれの加工技術の一層の充実、機種揃えをはかる。今回のグループ企業の社名変更、合併はそれを実現するための第一歩となる。

1. 塑性加工＝材料に大きな力を加えて変形させることによって目的とする形状に加工すること。塑性とは力を加えて変形させたとき、変形したままの状態になる物質の性質のこと。
2. 切削加工＝工作物（被加工物）刃物とに正確な相対運動を与え、工作物の不要な部分を切り屑として削り取り、一定の大きさや形状に仕上げる工作方法。

以上